令和６年度
学びを通じたみやぎの
共生社会推進事業

成果報告書

令和７年３月

宮城県教育委員会

目　次

共生社会、障害者の生涯学習について知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業について①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業について②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

地域コンソーシアムの構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

実践研究１「みんなで塩づくり体験」（塩竈市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

実践研究２「浦戸コレクション」（塩竈市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

実践研究３「まんがを描いてみよう講座」（塩竈市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

実践研究４「ベガルタ仙台サッカー教室（enjoy シェイプアップ）」（塩竈市）・・・８

実践研究５「音あそび　絵かきあそび　墨あそび　」（塩竈市）・・・・・・・・・・９

実践研究６「New スポーツ体験フェスタ」（名取市）・・・・・・・・・・・・・・・１０

実践研究７「ボッチャおおさきカップ」（大崎市）・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

実践研究まとめ「プログラム開発で見えてきたこと」・・・・・・・・・・・・・・１２

普及・啓発１「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in みやぎ」・・・・・・１３

普及・啓発２「まなびの WEB 宮城」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

研修１「公共図書館等職員研修会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

研修２「仙南地域研修会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

研修３「亘理町共生社会研修会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

研修４「仙萩の杜研修会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

研修５「社会教育関係職員・公民館等職員研修会」・・・・・・・・・・・・・・・・１９

「山元支援学校高等部生徒の学び支援」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

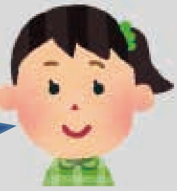
研修のまとめ、令和６年度の事業を振り返って、令和７年度の取組予定・・・・２１

共生社会、障害者の生涯学習について知ろう

トークルーム
今日のテーマは「共生社会」

最近よく耳にするけど、「共生社会」ってなに？

「これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会」のことだよ。



どうして「障害者の生涯学習」を推進しているの？

障害者の学びや交流の機会をさらに広げることが、
「共生社会」の実現につながると考えたからだよ。

障害者の中には、学んだことが身に付くまでに時間がかかる人がいるのに、学校に通える期間は短いし、通える学校も限られているんだよ。
学校を卒業した後の学ぶ機会はこれまで注目されなかったんだよ。

きっかけとなったのは「障害者権利条約」。
国連総会で平成18年に採択され、日本では平成26年に批准したんだ。平成29年に文部科学省に「障害者学習支援推進室」が設置され、障害者の生涯学習政策がはじまったよ。

障害者の生涯学習機会を広げていこうとする努力は、共生社会実現に向けた動きの一部でもあると言えるんだね。

宮城県ではどんなことをしているの？

宮城県では令和5年度から
「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」
に取り組んでいるよ。

次のページから、「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」について紹介するよ。

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業について①

国(文部科学省)と県の動き

平成26年 | 29 | 30 | 令和4年 | 5

国

- 平成26年：障害者権利条約批准
- 29：障害者学習支援推進室新設
- 30：障害者学習支援推進室 実践研究事業開始
- 令和4年：中央教育審議会「議論の整理」 多様な障害に対応した生涯学習の推進

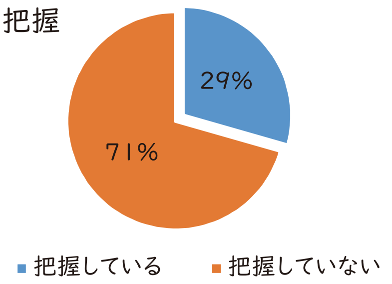
県

- 第2期宮城県教育振興基本計画
  - 目標の1つ：生涯にわたり学び、相互に多様性を認め、高め合い、幸福や生きがいを感じながら充実した人生を送ることができる地域社会を作る
  - 重点的取組：誰もがいつでも学ぶことができる環境の充実
- 令和4年：障害者の生涯学習活動に関する実態調査
  - 対象：仙台市を除く県内34市町村
- 5：学びを通じたみやぎの共生社会推進事業
  - 対象：仙台市を除く県内34市町村

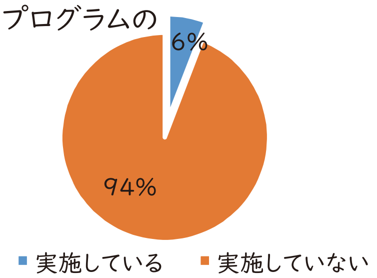
○ 障害者の生涯学習活動に関する取組を把握している
…10市町村(29%)

○ 学校卒業後の障害者が生涯学習活動として取り組める事業・プログラムを実施している
…2市町村(約6%)

取組の把握



事業・プログラムの実施



調査から分かったこと

事業・プログラムを実施していない理由は
「体制が整っていない」
「障害者本人からのニーズを捉えられていない」
「職員に実施のノウハウがない」
「どのように事業やプログラムを展開すればよいかわからない」…

障害者理解の推進や職員の研修、事業・プログラム実施のノウハウを市町村で広げる必要がある。

宮城県教育庁生涯学習課で令和5年度から
学びを通じたみやぎの共生社会推進事業の実施

文部科学省の政策を受け、県内市町村の実態を把握して始めたんだね。

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業について②

目的

〇障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指す

〇学校を卒業しても学び続けることができる持続可能で循環できる仕組みを形成する

事業内容

本事業は、学校卒業後の障害者本人が、仲間との交流機会や様々な学習機会へ参加しやすい環境を整えるための支援の枠組みをつくるとともに、障害の有無にかかわらず、誰もが共に学べるインクルーシブな学びの場づくりを目指すものです。

令和6年度は「つなげる・広がる」をテーマとし、学びたいときに学べる環境づくりや具体的な取組として何ができるかを考え、プログラムの実施に留まらず、人がつながり、取組を継続させることの重要性を理解し、さらに広範囲のつながりや連携づくりを推進しました。

1 地域コンソーシアムの構築

・外部有識者（大学教授等）、NPO、障害者支援団体等 25 人
・年4回実施・ネットワークづくり 目的目標の明確化

2 実践研究

・塩竈市 ・名取市 ・大崎市
・亘理町 ・（福）仙萩の杜
・県立自然の家 ・図書館
・大河原地区研修

3 普及・啓発

・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in みやぎ」
・「生涯学習情報サイト まなびの WEB 宮城」

「地域コンソーシアムの構築」

教育部局だけでなく、知事部局の保健福祉部や、福祉事業所や NPO、企業等が一堂に会し、情報共有や連携を図りながら、障害者の生涯学習を推進する方策を検討してきました。

また、コンソーシアム委員同士のつながりから、新たな取組が生まれました。

「実践研究」

市町村や社会教育施設、関係団体、県立自然の家等での実践をとおし、障害の有無にかかわらず学び、体験できる学習プログラムを開発し、普及啓発につなげました。

5ページからの事例紹介でどのようなプログラムに取り組んだのかを紹介します。

「普及・啓発」

社会教育・生涯学習関係職員の研修をとおした人材育成や、研究成果の普及や実践者どうしの交流の機会となる「共生社会コンファレンス」の開催等をとおし、障害者の生涯学習に対する理解促進を図りました。

「生涯学習情報サイト『まなびの WEB 宮城』」では、講座・イベント情報や活動事例のページで障害者の生涯学習に関する情報を提供しています。

地域コンソーシアムの構築

名称

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業
連携コンソーシアム

構成

外部有識者（大学教授等）、NPO 職員、福祉関係団体職員、障害者支援団体、
社会教育団体職員、企業、関係各課等　25人で構成

目的

教育、福祉、企業、社会教育に関する団体の代表者や有識者が会議をとおして、関係者同士のネットワークを広げたり、事業の方向性や展開について協議したりすることで、学校卒業後の障害者の学びの場の支援及び拡充を図る。

会議

目的達成のために年間4回の会議を実施しました。

第１回
日時：令和6年7月9日
内容：
委員の顔合わせ
情報交換
コンファレンスに向けての協議

第2回
日時：令和6年8月30日
内容：参加者との意見交換
※共生社会コンファレンスと併せて実施

第3回
日時：令和6年11月11日
内容：実践研究の報告、検証

第4回
日時：令和7年2月12日
内容：調査研究の報告
　　　次年度への展望

実践研究 1

「みんなで塩づくり体験」

塩竈市教育委員会

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 6月27日（木） 9:30～11:30	①合同会社 「顔晴（がんば）れ塩竈」 ②塩竈市地域活動支援センター 「藻塩（もしお）の里」	顔晴れ塩竈職員 塩竈市生涯学習課職員 藻塩の里職員

何を（学び）	だれに（対象）
①藻塩づくり見学 塩竈の地名の由来を学ぶ ②塩作り体験	藻塩の里利用者（障害者本人）

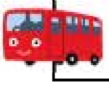
藻塩作り見学

ここがポイント

障害者本人の参加を促すため、行政（生涯学習課）から藻塩の里に直接アプローチ!

塩作り体験

当日のスケジュール



10:10	10:30	11:00	11:20	12:00
移動	①見学等	移動	②塩作り体験	昼食

自分で作った藻塩を使ってお弁当を食べたよ

障害者の学びのために

周知・広報…障害者本人が混乱しないように、チラシに分かりやすく時間を示す。
「予定がずれることがある」ことを明記すると安心して申し込みやすくなる。

配慮…工場見学は現場で行うが、その後の塩づくりは障害者本人が慣れ親しんでいる藻塩の里で行った。慣れている場所（環境）の設定が安心して活動することにつながった。

連携…その後の事業でも藻塩の里に声をかけて参加してもらい、継続的なつながりを意識した。

実践研究 2

「浦戸コレクション」

塩竈市教育委員会

いつ（日時）

令和6年
9月28日（土）
9:30～14:00

どこで（場所）

塩竈市浦戸（うらと）
野々島（ののしま）、石浜（いしはま）

だれと（講師等）

ビルドフルーガス
つながる湾プロジェクト運営委員会
エイブル・アート・ジャパン
塩竈市生涯学習課職員

何を（学び）

①島を散策し宝物にしたい風景を写真に撮影
②海辺で気に入ったものを拾い集め、コレクションBOXを作成
③渡船で隣島に渡り、島内を散策

だれに（対象）

障害の有無にかかわらず誰でも

ここがポイント

散策は「のんびりコース」「とことんコース」の2つを設定。
自分の体力にあわせて　選べるようにしたよ！

コレクションBOX

島内散策

当日のスケジュール

9:30	10:00	11:15	12:10	12:50	14:00–15:00
移動	①説明 散策	②コレクションBOX作成 発表会	昼食 午前中のみ参加の方は解散	③渡船で石浜へ 島内散策	移動 解散

障害者の学びのために

周知・広報…まなびのWEB宮城で広報を行った。市外からの参加者もあった。
配慮…外での活動のため熱中症等を考慮して、9月末に時期を設定した。
　　車いすの方の参加を想定して下見、コース設定を行った。
連携…前回のプログラムでつながりができた藻塩の里に参加を促した。
　　藻塩の里とつながりがある事業所からの参加者もあった。

活動の様子→

実践研究 3

「まんがを描いてみよう講座」

塩竈市教育委員会

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 11月24日（日） 14:00～16:00	ふれあいエスプ塩竈	市内在住の漫画家　ひが栞さん エイブル・アート・ジャパン 塩竈市生涯学習課職員

何を（学び）	だれに（対象）
漫画・イラストの描き方 自分の好きな漫画作品の模写 オリジナル作品の描写	障害の有無にかかわらず誰でも （小学3年生以上）

講座の様子

ここがポイント

既存の講座を生かしたプログラム！

保護者同伴での参加も可能！

講座の様子

当日のスケジュール

14:00	14:20	14:30	15:30	16:00～16:45
開始 テキスト説明	講師実演	イラストや漫画を描く	質問コーナー 合評会（希望者）	イラストや漫画を描く（希望者）

「まだ、描き足りない」という参加者のために、活動場所を提供したよ

障害者の学びのために

周知・広報…合理的配慮のピクトグラムをチラシに記載。安心して申込みできるようにした。

配慮…講座の途中退席、声出し OK。休憩所を設置した。

連携…これまでの事業に参加した事業所に参加を促した。

NPO と連携して講座の企画運営を行った。

講座の様子→

実践研究 4

「ベガルタ仙台サッカー教室」（enjoy シェイプアップ）

塩竈市教育委員会

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 11月28日（木） 10:00～10:50	塩竈市立第二小学校 校庭	ベガルタ仙台スクールコーチ 塩竈市生涯学習課職員

何を（学び）	だれに（対象）
ベガルタ仙台スクールコーチによるボール運動 （体ほぐしの運動、サッカー）	塩竈市立第二小学校児童（3年生） 利府支援学校生徒

ここがポイント

障害の有無にかかわらず同じ空間でスポーツを楽しむ

当日のスケジュール

9:30	10:00	10:50	11:00
移動 準備	ボールを使った活動	記念撮影	

障害者の学びのために

周知・広報…学校を通して周知を行った。

配慮…複雑な動きのある活動を減らし、できる範囲での活動とした。

連携…コンソーシアム委員同士のつながりにより実施した。

実践研究 5

"ここちよい"の実践プログラム［発散の時間］
音あそび　絵かきあそび　墨あそび

塩竈市教育委員会

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 12月21日（土） 10:00～11:00	塩竈市杉村惇美術館	音楽療法スタジオみらいミュージック 美術作家 佐竹真紀子さん 生涯発達支援塾 TANE 杉村惇美術館 障害者芸術活動支援センター@宮城 （NPO 法人エイブル・アート・ジャパン） 塩竈市生涯学習課職員

何を（学び）	だれに（対象）
楽器でセッションしたり、楽器を鳴らしたりして楽しむ チョークなどを使って、思い思いに表現を楽しむ 墨を使って、思い思いに表現を楽しむ	障害の有無にかかわらず誰でも （小学3年生以上）

ここがポイント

1つの会場で3つのプログラムを実施
入退室可、随時参加可とした
誰もが個性や特性を生かし「ここちよさ」を体験するプログラム

障害者の学びのために

周知・広報…まなびの WEB 宮城で広報を行った。

配慮…入退室可、随時参加可とし、活動時間を30分から1時間に設定。本人の意思決定を大切にし、活動への参加を選択できる環境の提供ができるようにした。

連携…市内にある美術館と連携した。

実践研究 6

「New スポーツ体験フェスタ」

名取市閖上公民館（名取市教育委員会）

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 9月14日（土） 9:30～12:00	名取市閖上公民館 閖上体育館	尚絅学院大学 宮城県立名取支援学校 名取市手をつなぐ育成会 社会福祉法人みのり会 らいとはうす名取 名取市スポーツ協会　等

何を（学び）	だれに（対象）
ボッチャ、モルック、ストラックアウト、バッゴー、バスケフリースロー、閖上太鼓体験、椅子ヨガ、キッズ体験コーナー	障害の有無にかかわらず誰でも （主として閖上地区在住の方）

ボッチャ体験

ここがポイント

公民館ならではのかかわりを生かした、多様な連携によるイベント運営
コンソーシアム委員が事業アドバイザーとして、計画立案からイベント実施までをサポート

モルック体験

バッゴー体験

障害者の学びのために

周知・広報…公民館だより、Instagram、Facebook、まなびの WEB 宮城で広報を行った。
配慮…暑さに配慮し、給水コーナーを設けた。会場各所に椅子を設置し、休む場所を設けた。
連携…大学、支援学校、手をつなぐ育成会、社会福祉法人、サークル、愛好会等、多数の団体と連携。
　　それぞれが持ち味を生かしたブース運営を行った。

実践研究 7

「ボッチャおおさきカップ」

大崎市教育委員会

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 11月16日（土） 9:00～12:00	大崎市古川総合体育館	大崎市スポーツ推進委員 スポーツフィールドおおさき実行委員会 大崎市体育協会 大崎市スポーツ少年団 大崎市社会体育担当職員 大崎市生涯学習課職員

何を（学び）	だれに（対象）
ボッチャ	大崎市に在住、在勤または通学する市民（小学生以上） （障害の有無にかかわらず）

ここがポイント

既存のスポーツイベントを活用
障害の有無にかかわらず同じチームで参加

当日のスケジュール

8:30	9:00	9:30	12:00
参加者受付	開会式	競技	閉会式

障害者の学びのために

周知・広報…関係施設を訪問しての広報や福祉担当課からも広報・周知を行った。
配慮…事前に相談可能として、障害者本人が不安なく参加できるようにした。
連携…スポーツ推進委員、体育協会、スポーツ少年団と連携して実施した。また、障がい者スポーツ指導者協議会から後援を受けた。

実践研究 まとめ

「プログラム開発で見えてきたこと」

令和６年度の実践研究を３つの視点から振り返ると・・・

視点	具体的取組	期待される学びへの効果
広報・周知	広報物にはっきりとした時間を示す。 「予定がずれることがある」ことを明記する。	混乱を防ぎ、安心して申込みやすくなる。
	合理的配慮のピクトグラムを広報物に記載する。	配慮事項が視覚で確認でき、安心して申込みできる。
	まなびの WEB 宮城に情報を掲載する。	県内全域を対象に情報を発信しているため、他市町村の情報を得られる。
	福祉担当課や学校を通して周知する。	福祉事業所職員、利用者や児童・生徒の参加の増加が見込まれる。
配慮	障害者本人が慣れ親しんでいる場所でプログラム（講座、イベント）を実施する。	安心して活動できるため、学びに集中できる。移動が困難で参加不可能という学びの阻害要因を排除できる。
	気温や天候を考慮した活動時期を設定する。	体調面での不安が減り、活動できる。
	下見を行うなどして、参加者の特性をふまえたプログラムを企画・立案する。	参加者の特性により学びが制限されることを減らすことができる。
	プログラム中の途中退席可、声出し可、休憩スペース設置等、特性に応じた配慮を行う。	安心して学ぶことができる。配慮が必要な事項を検討する過程が、実施側の障害理解にもつながる。
	プログラムの活動時間を短く設定する。	短時間であるため集中して取り組むことができる。
連携	障害者本人が働く事業所に直接参加を呼び掛けるなどの情報共有を行う。	プログラム内容を詳しく知ってもらうことができ、参加につながる。
	つながりができた事業所には、次回のプログラムへの参加を声掛けする。	学びの継続性が生まれる。
	手をつなぐ育成会、社会福祉法人、NPO 等と連携する。	それぞれが得意な分野でのプログラム実施、特性に応じた対応等の配慮につながる。
	アドバイザー派遣（宮城県教育庁生涯学習課）を活用する。	プログラムについての助言を得て、企画・運営できる。

障害者の生涯学習を推進するために大切なことは

学びの情報をわかりやすく届ける！
プログラム（講座やイベント）参加への不安をできるだけ和らげる！
「楽しみ」という気持ちや期待感等をもってもらう！

普及啓発 1

「共に学び、生きる　共生社会コンファレンス in みやぎ」

日時：令和6年8月30日
場所：塩竈市公民館、ふれあいエスプ塩竈
内容：〇オープニングセレモニー「アコーディオン演奏」（フレンズドリーム）
〇実践発表（小松英紀氏、佐藤佑梨圭氏、吉田辰之介氏）
〇パネルディスカッション（コーディネーター　佐々木健太郎氏）
〇ワークショップ「一緒に体験しよう、話そう」
・ブラインドサッカー、車いす競技体験（一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会）
・活動紹介（塩竈市地域活動支援センター藻塩の里）
・インクルーシブスポーツキャラバン紹介（一般社団法人 Golazo/株式会社ベガルタ仙台）
・アートライブ、活動紹介、ポラリスコーヒーカフェ（試飲コーナー）（特定非営利活動法人ポラリス）
・取組紹介、パン等販売（特定非営利活動法人奏海の杜）
・知的・発達障害疑似体験（名取市手をつなぐ育成会いろはとりどり隊）
・活版印刷体験（社会福祉法人洗心会のぞみ福祉作業所）
・点字ブロック、オセロ等の展示（宮城県障害者福祉センター）
〇意見交換「これからにつなげよう」

アコーディオン演奏

体験・展示発表

コンファレンスの動画は下記二次元コードから視聴できます　↓

参加者同士の意見交流

参加者の声（抜粋）
・公民館として地域に障害の多様性についての学びの場を作ることも大事だと感じました。
・今後も当事者の方が活躍される場が増えていくといいと思います。
・出展された方が積極的に誘ってくださり、参加しやすい雰囲気でたいへんよかったです。普段できない体験ができ、なかなか訪れられない施設の様子を知ることができました。

普及啓発 2

「まなびの WEB 宮城」とは？

県内で開催される講座等の情報を県民のみなさんに分かりやすく提供することを目的としたウェブサイトです。

県民のみなさん一人ひとりがそれぞれの希望やニーズに応じて、生涯にわたり学び続けられる環境を整備するため、また、個人の学びの成果が様々な場面で発揮されることで、地域や社会に好影響がもたらされることを目指しています。

・障害者の生涯学習に関する活動事例を掲載しています。

・また、イベント情報の告知にも活用できます。

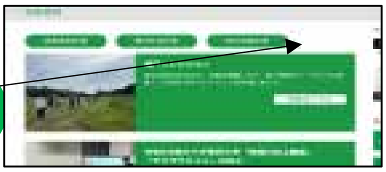
障害者の生涯学習推進のために

・障害者の生涯学習推進のため、各ページに「合理的配慮」を追加します。

・「障害者の生涯学習」のカテゴリーを追加し、検索しやすくします。
（令和7年3月から）

作成イメージ

障害者の生涯学習記事



WEB ページはこちらから

Facebook はこちらから

YouTube はこちらから

研修 1

「公共図書館等職員研修会」
（図書館関係職員に対する研修）

ねらい	図書館における障害者サービス、ユニバーサルサービスに係る基礎的な知識・技術習得のための機会を設け、公共図書館等におけるサービスの向上及び業務の一助となることを目的とする。

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 7月19日（金） 10:20～15:50	宮城県図書館	①宮城県視聴覚障害者情報センター職員 ②りんごプロジェクトメンバー

何を（研修内容）	だれに（対象）
講義①：「視覚障害と図書館サービス」 講義②：「りんごの棚から始まる公共図書館・学校図書館の読書バリアフリー」	県内公共図書館等職員 県立学校職員 （希望制）

スケジュール

10:00	10:20	10:30	12:30	13:30	15:30
開場・受付	開会	講義①	昼食・休憩	講義②	コンプリーション・閉会

15:50

読書バリアフリーについての講義

読書バリアフリー関係資料の展示紹介

りんごプロジェクトが行っている公共図書館や学校との取組により、新たな実践が次々と生まれています。特に学校図書館には障害者サービス等、大きな可能性があることが明らかになってきました。

講義②の前半は読書バリアフリー法と障害者サービスについて、後半は学校図書館のりんごの棚※を通じて読書バリアフリーな図書館を実現するための具体的な取組を紹介していただきました。

※りんごの棚・・・公共図書館のサービスの1つ。障害のある子供や、紙に印刷された文字を読むことが難しい人を対象に、読書へのアクセシビリティを工夫した資料を集めたコーナー。スウェーデンで始まった。

研修 2

「仙南地域研修会」
（市町村の社会教育主事に対する研修）

ねらい

仙南地域の行政職員（大河原地区社会教育主事研究協議会会員）を対象とした研修を行うことで、事業の普及・啓発を図る。また、障害者の生涯学習についての理解を促進し、仙南地域での障害者の生涯学習の拡大を図る。

いつ（日時）

令和6年
9月10日（火）
10:20～15:40

どこで（場所）

①山元町勤労青少年ホーム
②角田市市民センター

だれと（講師等）

①特定非営利活動法人ポラリス（利用者・職員）
②特定非営利活動法人ポラリス代表

何を（研修内容）

①実践紹介：障害者本人が地域の方と行っている活動
（町の生涯学習プログラム）の視察と講話
②講義・演習：社会教育と福祉をテーマとした
ポラリスの活動紹介、研修を振り返って意見交換

だれに（対象）

大河原地区社会教育主事
研究協議会会員

スケジュール

10:00	10:20	10:30	11:30	13:30	15:30	15:40
受付	開会	講義① （実践紹介）	移動 昼食・休憩	講義② （ポラリスの活動、質疑応答）	閉会	

卓球バレー

講師と社会教育主事の意見交換

障害者本人が地域の方と行っている活動（体操や卓球バレー）を視察し、一緒に体験することで障害理解を図るとともに、市町村でプログラムを実践する上での企画・運営について知見を深めました。
障害者の生涯学習支援のあり方についてポラリスが行ってきた事例を基に講話をいただき、「障害者の生涯学習を始めるための第一歩とは」「社会教育主事として行政で何をすればよいのか？」等のテーマについて考え、意見交換しました。

研修 3

「亘理町共生社会研修会」

（町行政職員、町民に対する研修）

ねらい

町民等が「障害者の生涯学習」について学び、亘理町でできることを考えることで、様々な学びの場を創設する機会とする。

いつ（日時）

令和6年
11月19日（火）
13:30～15:30

どこで（場所）

亘理町役場
会議室

だれと（講師等）

特定非営利活動法人ポラリス代表、
ピアサポーター、利用者、支援スタッフ

何を（研修内容）

講義・ワークショップ
①「障害を抱えて生きること、動物の絵を描くこと」
②「障害者が地域とつながるために」
「亘理町でできることを考え合おう」

だれに（対象）

社会教育施設職員、社会教育委員
放課後楽校スタッフ、福祉関係職員
町内学校教職員

スケジュール

13:20	13:30	13:35	13:45	14:20	14:25	15:25
開場受付	開会	事業説明	講義・ワークショップ①	休憩	講義・ワークショップ②	振り返り・閉会（～15:30）

障害者本人による講義を聞いたり、ワークショップで話したりすることで、障害者本人を身近に感じ、障害理解をより深めました。また、自分たちが暮らす町で、これから障害者と地域がつながるためには何ができるか、何をすべきかについて考えることができました。今後、町が共生社会を進めるにあたっての第一歩となりました。

研修 4

「仙萩の杜研修会」
（働く当事者に対する研修）

ねらい
事業所で就労する障害者本人の学びの場を創設し、学校卒業後の学びを推進する。

いつ（日時）
令和6年
12月17日（火）
15:30～16:30

どこで（場所）
レストランぴぁ
※当事者が就労するレストラン

だれと（講師等）
宮城県消費生活センター職員

何を（研修内容）
講座
「SNS 等による消費者トラブルについて」

だれに（対象）
レストランぴぁで働く障害者本人と家族

スケジュール

15:00	15:25	15:30	16:30	
準備 受付	開会 行事	講座	諸連絡	片付け

講座の様子

講座の様子

障害者本人が働くレストランを会場に、参加者のニーズが高かった「スマホ等のトラブル」をテーマに、障害者本人、家族向けの講座を実施しました。仕事の後にそのまま研修に参加できるため、「学びたいけれど、移動が大変」という学びを阻害する要素を一つクリアできました。また、普段働いている場所であることから、安心感をもって学ぶことができていました。

研修 5

「社会教育関係職員・公民館等職員研修会」
（図書館関係職員に対する研修）

ねらい
社会教育・生涯学習に関わる職員や、社会福祉・障害福祉に関わる職員が、共生社会に関する講話を聞き、共生社会についての理解促進を図るとともに、自分事として自分の地域で何ができるかを考える機会とする。

いつ（日時）
令和6年
12月18日（水）
13:20～16:20

どこで（場所）
宮城県図書館

だれと（講師等）
①神戸大学大学院人間発達環境学研究科　教授
②特定非営利活動法人ポラリス代表
　ピアサポーター

何を（研修内容）
講義①：「地域共生社会を考える」
～障害の有無にかかわらず共に生涯学びつづけるためには～

講義②：「障害を抱えて生きること、障害者が地域と
　　　　つながるために」

だれに（対象）
市町村社会教育関係職員
公民館等社会教育関連施設職員
市町村保健福祉部門関係職員
特別支援学校職員
福祉・共生社会について学んでみたい方

スケジュール

13:00	13:20	13:30	15:00	15:10	16:20
開場受付	開会行事	講義①「地域共生社会を考える」～障害の有無にかかわらず共に生涯学びつづけるためには～	休憩	講義②「障害を抱えて生きること、障害者が地域とつながるために」	閉会行事

講義

参加者同士の意見交換

（参加者の感想より抜粋）「学びから排除されている人たちに目を向けて事業を考えることの必要性を感じた。」「障害のある人もない人も共に学ぶ機会を創出することの大切さを改めて感じた」
　講義を聴講し、参加者同士で意見交換をすることで障害者の生涯学習を推進することの大切さに気付き、また、何をすべきかを考えることができました。

特別支援学校の学び支援

「山元支援学校高等部生徒の学び支援」

ねらい

町内の就労施設を見学したり、施設職員の講話を聞いたりすることで、学校卒業後の「はたらく」「たのしむ」「まなぶ」について学ぶ。

いつ（日時）	どこで（場所）	だれと（講師等）
令和6年 11月14日（木） 10:25～11:40	就労継続支援Ｂ型事業所ポラリス	事業所職員

何を（研修内容）	だれに（対象）
・施設見学 ・施設代表の話の聴講 ・質疑応答	山元支援学校 （高等部1学年生徒・教員・保護者）

聴講の様子

施設見学

支援学校の生徒が校外学習で町内にある作業所を訪問しました。コーヒーを焙煎している施設を見学したり、代表の話を聴講したりして、学校卒業後の「はたらく」「たのしむ」「まなぶ」について考えました。高校1年生が、卒業する2年後を見据えて、学校卒業後のことについて考えていたことがポイントです。

施設で焙煎したコーヒー

「学校卒業後の学び」について考える

特別支援学校高等部において、卒業後の「働くこと」については教員、保護者にとって大きな関心事です。学校を卒業した後に地域の中でいきいきと働く、あるいは役割を持って生きるためにも、在学中から興味・関心のあることを見つけ、同時に、地域の中で学び続けられる環境をつくることが大切です。

研修のまとめ

研修をとおして見えてきたこと

行政職員や社会教育関係職員が当事者と関わり、障害（障害者本人）について知り、気付くことが、「障害者の生涯学習をつくる第一歩」。共生社会の学びをスタートすることにつながります。

また、障害者本人が地域とつながり、楽しみながら、自ら学び、働くための環境づくりをしていくことが、共生社会の実現には必要です。

令和６年度の事業を振り返って

令和5年度からスタートした「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」。
令和6年度は「つなげる・広がる」をテーマとして事業を実施してきました。

＜成果＞
・共生社会コンファレンスや様々な研修への参加者は、障害者本人と話したり、県内各地の事例を学んだりすることで、障害者の生涯学習のために、今、自分がいる立場や状況で何ができるのかを考えることができました。
・「広報・周知」「連携」「配慮」の3つの視点で実施した、各自治体の実践により、障害者本人が学びに参加するために配慮すべきことが分かってきました。自治体がそれぞれの実態に応じて障害者の生涯学習を推進していくために活かしていくことができます。
・コンファレンスや研修の参加者は、障害者の生涯学習を推進するにあたり、人がつながり、継続する取組の重要性を理解できました。
・コンソーシアム委員や事業で関わった方々のつながりが生まれ、新たな取組みが見られました。

令和７年度の取組（予定）

令和5年度　令和6年度　令和7年度

知る・気付く（障害理解・事例を学ぶことの継続）

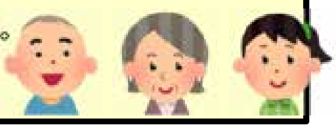
＜目標＞障害のある方の生涯学習の現状を知るとともに、障害の有無にかかわらず、誰もが学びたい時に学べるためにどうすればよいのか先行事例に学びながら考え、気付く。

つなげる・広がる（人と人のつながり、昨年度とのつながり、障害者本人と地域とのつながり）

＜目標＞障害の有無にかかわらず、誰もが学びたい時に学んでいける環境づくりや、具体的な取組として何ができるか考える。また、プログラムの実施だけに留まらず、人がつながり、継続する取組の重要性を理解する。

考える・深める（自分が所属する市町村でできること、障害者本人が学び続けるために必要なこと）

＜目標＞自分が所属する市町村でできること、障害者本人が学び続けるために必要なことを考え、深めていきます。アンケート調査をもとに、市町村の実態や障害者本人のニーズにあったプログラムを実施します。また、実践を積み重ねてきた内容を紹介し、県全体で障害の有無にかかわらない生涯学習の機運を醸成していきます。



宮城県教育庁生涯学習課生涯学習企画振興班

住所：〒980-8423　宮城県仙台市青葉区本町三丁目 8-1

電話：022-211-3653　FAX：022-211-3697

E-mail：syogaks@pref.miyagi.lg.jp

この印刷物は 1,500 部作成し、1部あたりの単価は 150 円です。

VEGETABLE OIL INK